

連載 第26回 『試聴室探訪記』
～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～
男の隠れ家 照井邸 “越谷スタジオ” 訪問
フォトグラファー 谷口 とものり・編集委員 森 芳久



今回は越谷市内の一戸建ての家を改装し、オーディオ再生はもちろん、録音や仲間で音楽演奏を十分に楽しめるスタジオを作りあげた照井和彦氏の「男の隠れ家」とも言える趣味を楽しむ空間「越谷スタジオ」を訪問しました。

オーナーの照井氏は、大手電気メーカーでオーディオの開発技術者として、またスーパーオーディオ CD の普及促進などの業務を務められてきましたが、昨年より自分の夢であった趣味としてのオーディオ再生また音楽演奏に力を入れ、同時にスーパーオーディオラボを主宰し、オーディオ界の活性化にも尽力するという第二の人生を選択されました。

このスタジオは越谷の住宅地の中にあります。外観からは普通の一戸建ての家といった風情ですが、室内に入ればそこはまさに男の趣味の世界です。防音ドアを締めればまさにそこは「男の隠れ家」。そこに並べられたオーディオ機器を見れば、この主がただ者ではないことがすぐに判るでしょう。訪問した日も CD による BGM が密やかに流されていましたが、やはりプロとしてオーディオに携わってきた人の再生する音は、心地よく上品さが印象的でした。ここには、照井氏お得意のドラムセットも常備品です。音楽仲間が集まれば直ぐにでもセッションがはじめられます。

この部屋についての詳しい説明と機器については、以下の照井氏のコメントとレイアウト図をご覧ください。

それでは、今回も谷口とものりさんの素晴らしい映像をお楽しみください。

越谷スタジオについて

スーパーオーディオラボ 照井 和彦

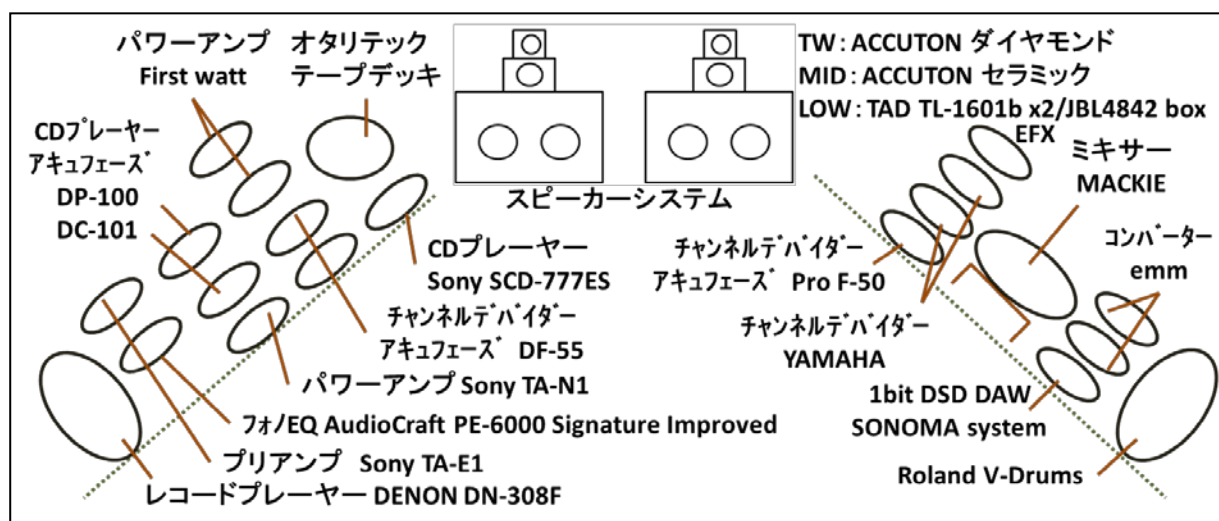
越谷は青少年期 20 数年間を過したところで両親の他界を機に音楽をノビノビ楽しむためのスペース創りを思い立ち、知り合いの匠にお願いして実家を施工してもらいました。6 畳と 8 畳間、台所の一部をつぶして 17 畳のスペースを確保し壁は珪藻土仕上げですが、天井に大建製オト天材を採用したので余計な響きが軽減されて大変良好です。

ここの一つの目的は 30 年来のバンド活動拠点としての練習スペース確保で、常設の電子ドラムはサンプリング音源が大変リアルで、キーボード、E ギター、E ベースをそれぞれ MACKIE のミキサーに立ち上げて、メンバー全員ヘッドホンで演奏音を聴きながら合わせていきます。

二つめは DSD ワークステーション SONOMA の前進基地として機材ストレージと動作チェックのスペース確保です。お座敷が掛かるとここから機材一式を送り出しています。

三つめの本命はオーディオルームで、遮音施工をしていませんから夜中は無理ですが日中はある程度の音量で楽しむことができます。気に入った JBL から好みの音を導き出したというのが醍醐味だと思っており、これまでに C-37 system、4331、PA 用 4770、4350 と経て、現在は TAD ウーファーを基本として中高域を取り換え引き換え試みているところです。375/2440 系 4 インチドライバーで JAZZ を楽しみたいと思っているのですが、なかなか鳴ってくれず、TAD4001 も高域は伸びるもののじっくり来ていません。写真でお分かりのように現在は普通のミッドレンジと普通のツイーターで、これは友人たちが定期的に器材持参で押しかけてくれては、せっせと調整を進めてくれた結果です。いつの間にかここから JBL が撤退しているのが悲しいですが。

そして四つめは宴会スペースです。現在のスピーカーシステムは実験教材+ネタにもなっておりこのところはアナログディスク再生+デバイダーの調整+スピーカーユニットの交換、ポートの調整などを進めながら季節折々で気のおけない友人たちとの酒盛りが楽しみになっております。



パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、[ここ](#)か、はじめのページの**画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
 - + 画面のズームイン
 - 画面のズームアウト
 - ← 画面の左移動
 - 画面の右移動
 - ↑ 画面の上方向への移動
 - ↓ 画面の下方向への移動